この学校では、こんな学びが始まる

地域の課題を解決できるスタートアップ人材の育成

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

静岡県立浜松工業高等学校

全日制／工業科

この改革が必要な背景

・ものづくり県・静岡の生産年齢人口が2040年までの20年で**22%減少**と見込まれる中、工業科の**地元就職率が約７割**と低く、若者層の県外転出者の**約４割が希望する職場がないと回答**する等、**地元に戻らない**ことが課題

・企業等と連携しながら**地域経済をけん引する新たな力**を創出できる人材が必要

事業概要（学びの変化）

「技術力はあるが、それをどう社会に役立てるか」の意識変革と実践的な学び

✓ 次世代に必要とされるAIやロボティクスに加え、リーン・スタートアップ等の起業方法論を体系的に学習

✓ **生徒がチームごとに「仮想会社」を立ち上げ**、実社会で役立つ仕事の進め方・考え方等の実践的能力を習得

地域企業の困りごとの解決策を製品化し販売する

✓ **地元企業等から持ち込まれた課題**に対し、**企業の現役技術者（技術エキスパート）の指導**の下、解決策を製品として形にする学び（産学官連携PBL）を継続的に実施

✓ **高度なデータ分析スキルを習得**し、市場ニーズや競合製品を徹底的に分析して製品化する手法を実践

✓ 完成した製品をテスト販売するために、校内にアンテナショップ・ＥＣ拠点機能を整備

実践的な学びを単なる体験で終わらせず、大学入試やその先へ

✓ 生徒が開発した技術・アイディアは、**弁理士や研究者の助言**により特許・意匠出願、国際学会発表につなげ、就職・進学後に活かせる仕組みを構築

✓ 技術・アイディアを更に発展させるための大学探しや、事業化支援につなげるプログラムを実施

✓ 連携大学と、課題研究の成果を**「総合型選抜」入試の評価対象とする新たな高大接続モデル**を構築

校内ピッチイベントを開催し、ビジネス視点を評価

✓ 精巧な工作から「社会にインパクトを与えるビジネス案」にシフトさせるため、使う人や社会のニーズを重視し、生徒が自分のアイデアを発表し評価を受ける場（**校内ピッチイベント**）を開催

✓ 国語・情報・美術等の教科の枠を超え、ビジネスで必須の**「伝える技術（ストーリーテリング）」や生成AIを用いた資料作成手法**を習得

＜生徒による製品開発の流れ（例）＞

【STEP1】
身近な社会や企業の「困りごと」を見つける

【STEP2】
アイデアを出し、解決の方向性を考える

【STEP3】
試作品をつくり、動かして確かめる

【STEP4】
企業などに伝え、意見や評価をもらう

【STEP5】
改善を重ね、成果として発表する（ピッチ）

高校生の未来の姿（指標の例）

研究テーマに関連する学部への総合型・学校推薦選抜による進学率

(R10) 60% ⇒ (R13) **80%**

作成した試作品が、企業の本格的な製品化検討につながった件数

年5件 ⇒ **年10件**

他校への普及方策

・カリキュラムや評価システムのオープンソース化
・「地域ハブ」として施設・設備を域内他校生徒へ開放
など

主な連携機関

静岡大学、浜松市、スズキ㈱、浜松商工会議所 ほか

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成